第 253 回「地域の会」定例会資料 〔前回定例会以降の動き〕

【不適合関係]	
•6月6日	4号機海水熱交換器建屋(非管理区域)におけるけが人の発生について	T
	(区分:Ⅲ)	[P. 2]
•6月10日	4 号機原子炉建屋(管理区域)におけるけが人の発生について	
	(区分:Ⅲ)	(P. 3)
•6月13日	核物質防護に関する不適合情報	(P. 4)
【発電所に係	る情報】	
•6月6日	柏崎刈羽原子力発電所における国際原子力機関(IAEA)による	
	エキスパートミッションの報告書受領について	(P. 8)
•6月12日	柏崎刈羽原子力発電所の 2023 年度訓練実施結果報告書の原子力規制	
	委員会への提出について	(P. 9)
•6月13日	燃料装荷後の健全性確認の進捗について	(P. 10)
•6月13日	柏崎刈羽原子力発電所の目指す姿の取り組み状況について	(P. 11)
•6月13日	能登半島地震を踏まえた地盤隆起時の海水取水訓練	(P. 17)
•6月13日	(運転保守状況) 5号機原子炉建屋1階ケーブルトレイ貫通部からの	
	空気の流れの確認について(区分:Ⅲ)	(P. 18)
•6月13日	(運転保守状況) 7号機制御棒1本分の駆動用モーターの電源不具合	
	ついて(区分:Ⅲ)	(P. 19)
•6月27日	地域活動への参加	(P. 20)
【その他】		
•6月26日	役員人事	(P. 21)
• 7月3日	柏崎刈羽原子力発電所に関するコミュニケーション活動等の取り組み	(P. 25)
【7号機の健全	全性確認について (ホームページ掲載)】	
•6月13日		(P. 26)
【福島第一原	子力発電所に関する主な情報】	
•6月27日	福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップの	
	進捗状況	〔別紙〕

当社原子力発電所の公表基準 (平成 15 年 11 月策定) における不適合事象の公表区分について

運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する事象

法律に基づく報告事象等の重要な事象

運転保守管理上重要な事象

上記以外の不適合事象

<参考>

区分: I

区分:Ⅱ

区分:Ⅲ

その他

以上

区分:Ⅲ

号機	4 号機		
件名	海水熱交換器建屋(非管理区域)におけるけが人の発生について		
不適合の 概要	2024年6月5日午前11時41分頃、海水熱交換器建屋地下1階原子炉補機冷却系熱交換器エリア(非管理区域)における、熱交換器の点検資機材の搬入作業において、クレーンで資機材運搬用ネット(空荷)を吊り上げた際に、ガイドローブが協力企業作業員の右足首に絡み、当該作業員が転倒しました。 その際、右ひざを床面に強打したことにより、歩行が困難となったことから救急車を要請し、病院で診察をうけました。 監視人 監視人 強上1階 がの発生状況		
	(ガイドロープが右足首に絡み、転倒した際に右ひざを強打) <安全上の重要度> <掲傷の程度>		
安全上の重 要度/損傷 の程度	□ 法令報告要 安全上重要な機器等		
対応状況	病院で診察の結果、「右膝蓋骨骨折」、と診断されました。 今回の事例を踏まえ、発電所関係者に周知し注意喚起を行うとともに、再発防止に 努めてまいります。		

区分:Ⅲ

号機	4 号機		
件名	原子炉建屋(管理区域)におけるけが人の発生について		
不適合の 概要	2024 年 6 月 7 日午後 3 時 50 分頃、原子炉建屋最上階エリア(管理区域)にて、協力企業作業員が、原子炉建屋天井クレーンの年次点検を実施し、作業終了後に、手袋を外したところ、右手の小指根元に切創(1cm 程度)と出血痕を確認したため、業務車にて病院に向かい、診察を受けました。 作業の状況から、クレーンのフックと吊具を取付ける作業において、固定治具挿入時に取手と吊具の間に指を挟んだものと推定しています。 なお、放射性物質による身体汚染はありません。		
199, 52	現場写真 はがの発生状況 (右手小指を挟み負傷)		
安全上の重 要度/損傷 の程度	<安全上の重要度> <損傷の程度> 安全上重要な機器等 その他 ■ 法令報告不要 □ 調査・検討中		
対応状況	病院で診察の結果、「右手小指挫創」と診断されました。 今回の事例を踏まえ、発電所関係者に周知し注意喚起を行うとともに、再発防止に 努めてまいります。		

核物質防護に関する不適合情報

2024年5月21日(火)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

- 1. 公表区分 I O件
- 2. 公表区分 II O件
- 3. 公表区分Ⅲ 1件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	核物質防護上の扉の付属機器が、正常に動作しないことを確認した。 障壁機能は維持。 調査の結果、当該機器の別作業において、誤った配線で施工したことを確認したため、配線を修正し、 正常な状態に復旧した。 誤った配線で施工された原因は、手順書の記載の不備であったことから、手順書の記載を修正した。	2024/2/1	

4. 公表区分その他 3件

NO.	不適合事象	発見日	備 考		
1	核物質防護上の障壁に錆を確認したことから、当該箇所を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、障壁機能は維持できていたこと及び現場設備に妨害破壊行為等の痕跡はなく、不審者や不審物 もなかったことを確認した。				
当社社員より、入構証を紛失したとの連絡があったことから、当該入構証の無効化措置を実施した。 2 また、関係者に対し、入構証の取り扱いルールについて再教育を行った。 なお、後日、当該入構証は発見され、不正使用された形跡も確認されなかった。					
3	侵入検知器が、不法行為等がないにも関わらず動作し続けることを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の検知機能は、代替措置にて維持した。	2024/4/25			

東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所

核物質防護に関する不適合情報

2024年5月28日(火)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。 ※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

- 1. 公表区分 I O件
- 2. 公表区分 II O件
- 3. 公表区分Ⅲ 1件

NO.	不適合事象	発見日	備 考
1	核物質防護上の点検用照明が、正常に点灯しなくなってから復旧するまでに時間を要したことを確認した。 復旧に時間を要した原因は、修理依頼箇所と修理実施箇所の担当者間の連携不足によるもの。 対策として、別部署へ修理依頼する際は担当者だけでなく、上位職にもあわせて連絡することで連携を強化することとした。	2023/7/19	

4. 公表区分その他 1件

NO.	不適合事象	発見日	備 考
1	核物質防護上の扉における付属機器が、一部正常に動作しないことを確認した。 障壁機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該機器を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中は当該扉の出入りを一部制限した。	2024/4/16	

東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所

核物質防護に関する不適合情報

2024年6月4日(火)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。 ※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

1. 公表区分 I O件

2. 公表区分 II O件

3. 公表区分Ⅲ O件

4. 公表区分その他 3件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	監視カメラの映像が、一部乱れることを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該カメラを交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の監視機能は、代替措置にて維持した。	2023/11/26	
2	協力企業より、1名分の入構証を紛失したとの連絡があったことから、当該入構証の無効化措置を実施した。 また、関係者に対し、入構証の取り扱いルールについて再教育を行った。 なお、当該入構証の不正使用は確認されていない。	2024/3/14	
3	侵入検知器が正常に動作しなくなり、その後自然復旧したことを確認した。 検知機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該侵入検知器を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/4/16	

東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所

核物質防護に関する不適合情報

2024年6月11日(火)までにパフォーマンス向上会議で確認した核物質防護に関する不適合事象は、下記のとおりです。 ※核物質防護措置に関わる情報のため、事象の概要のみ、お知らせさせていただきます。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

核物質防護に関わる不適合の公表方針・公表基準については以下のURLをクリックしてご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/pp/pdf/policy.pdf

- 1. 公表区分 I O件
- 2. 公表区分 II O件
- 3. 公表区分Ⅲ 1件

NO.	不適合事象	発見日	備 考
1	監視カメラの映像が、一部乱れることを確認した。 監視機能は維持。 調査の結果、当該カメラの付属機器取替作業において、誤った配線で施工したことを確認したため、配線 を修正し、正常な状態に復旧した。 誤った配線で施工された原因は、付属機器取替に伴う仕様の確認不足であったことから、仕様確認の徹 底を関係者へ周知した。	2024/3/28	

4. 公表区分その他 10件

NO.	不適合事象	発見日	備考
1	監視カメラの映像が、映らないことを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の監視機能は、代替措置にて維持した。	2022/8/22	
2		2023/6/8	
3	監視カメラの一部機能が正常に動作しなくなり、その後短時間で自然復旧したことを確認した。 監視機能は維持。	2023/6/17	
4	調査の結果、設備面に異常は確認できなかったことから、一過性の不具合と判断した。	2023/6/17	
5		2023/6/18	
6	監視モニタの映像が、映らないことを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、バックアップ用のモニタであったことから、代替措置は不要と判断した。	2023/10/19	
7	侵入検知器の一部機能が、正常に動作しないことを確認した。 侵入検知機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/3/13	
8	侵入検知器が、不法行為等がないにも関わらず動作を繰り返すことを確認した。 検知機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該不具合箇所を交換し、正常な状態に復旧した。	2024/3/18	
9	核物質防護上の扉における付属機器が、一部正常に動作しないことを確認した。 障壁機能は維持。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該機器を交換し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中は当該扉の出入りを一部制限した。	2024/5/14	
10	侵入検知器が、不法行為等がないにも関わらず動作し続けることを確認した。 調査の結果、設備面の不具合であったことから、当該不具合箇所を修理し、正常な状態に復旧した。 なお、不具合発生期間中の検知機能は、代替措置にて維持した。	2024/5/30	



柏崎刈羽原子力発電所における国際原子力機関(IAEA)による エキスパートミッションの報告書受領について

2024年6月6日 東京電力ホールディングス株式会社

当社は、柏崎刈羽原子力発電所で実施された国際原子力機関(以下、IAEA)による エキスパートミッション**(2024年3月25日~4月2日)の結果報告書を受領したため、 お知らせいたします。

今回のエキスパートミッションは、IAEA の選定した核物質防護の国際専門家により、 核物質防護事案の改善措置として実施した当社の取り組みについて、IAEA が定める核セキ ュリティの国際的な文書に照らして確認していただきました。

報告書では、IDカード不正使用事案および核物質防護設備の一部機能喪失事案に対する 改善措置計画(36項目)のほとんどが完了したほか、完了までに時間とリソースを要する対 策も計画に従って適切に実施されているため、根本原因に対処したと結論付けています。 中でも、発電所の管理者層全体が核セキュリティ文化を改善するために措置を講じている ことに関しては、高い評価を受けました。

一方、①内部脅威の未然防止策 ②社内ルール(連携・管理)の徹底 ③持続可能な業務運営 ④保全計画の運用 ⑤不要警報の削減とセットバック対策 について更なる向上のために助言を受けています。

当社は、頂いた助言の内容を真摯に受け止め、核物質防護措置の更なる向上に努めてま いります。

※ エキスパートミッション: IAEA 主導のもと、国際的な専門家で構成されたチームが、IAEA 加盟国 内の事業者の原子力施設やその活動について、IAEA の国際基準に照らし、取り組みへの改善に役立 てることを目的とするもの。

以上

【本件に関するお問い合わせ】 東京電力ホールディングス株式会社 広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111 (代表)





柏崎刈羽原子力発電所の 2023 年度訓練実施結果報告書の 原子力規制委員会への提出について

2024年6月12日 東京電力ホールディングス株式会社

当社は、2000年6月に施行された原子力災害対策特別措置法に基づき、福島第一原 子力発電所、福島第二原子力発電所、柏崎刈羽原子力発電所の発電所ごとに作成した 「原子力事業者防災業務計画※」に従い、防災訓練を実施しております。

原子力事業者は、2012 年 6 月に改正された原子力災害対策特別措置法の規定に基 づき、防災訓練の実施結果について、原子力規制委員会に報告するとともに、その要 旨を公表することとなっております。

本日、柏崎刈羽原子力発電所の 2023 年度「防災訓練実施結果報告書」を同委員会 に提出しましたので、お知らせいたします。

以上

※原子力事業者防災業務計画

原子力災害対策特別措置法に基づき、原子力災害の発生および拡大の防止ならびに 原子力災害時の復旧に必要な業務等について定めたもの。

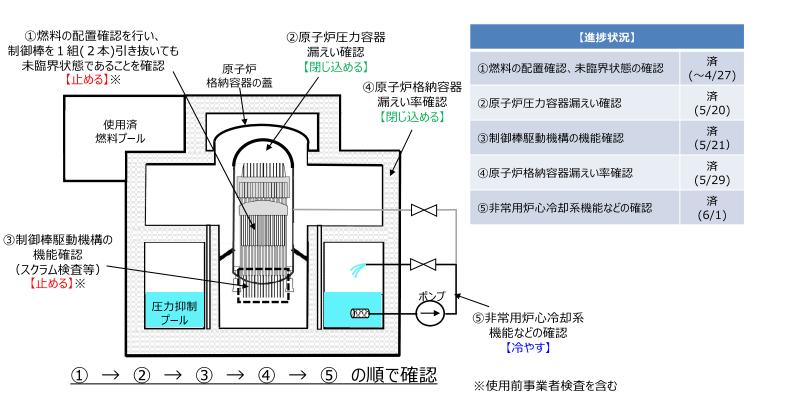
添付資料

柏崎刈羽原子力発電所「防災訓練実施結果報告書」

【本件に関するお問い合わせ】 東京電力ホールディングス株式会社 広報室 原子力報道グループ 03-6373-1111 (代表)

燃料装荷後の健全性確認の進捗について

- ▶ 6月12日までに主要設備を含めて、全体的な健全性確認を実施
- ▶ これにより、原子炉の起動に必要な主要設備の機能が十分に発揮できることを確認



柏崎刈羽原子力発電所の 目指す姿の取り組み状況について

TEPCO

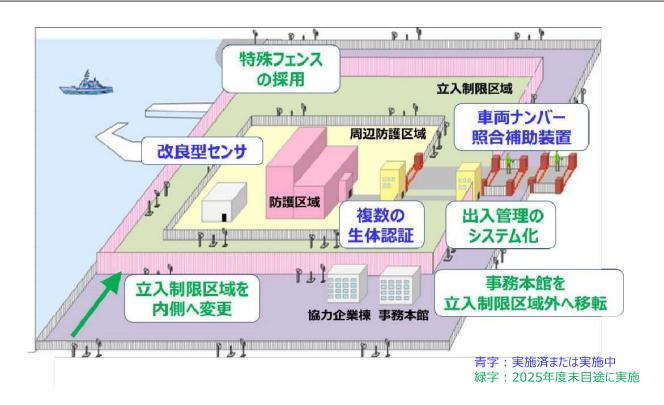
2024年6月13日 東京電力ホールディングス株式会社 柏崎刈羽原子力発電所

柏崎刈羽原子力発電所の目指す姿

- (1) 核物質防護事案の各改善措置項目の効果が十分に発揮できていること
 - ・設備面での対策はもとより、運用面での対応に注力できていること
 - ・迅速かつ的確な監視体制
 - ・防護直員の閉塞感の解消
- (2) 安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること
 - ・安全対策工事や使用前事業者検査の完遂
 - ・非常用ディーゼル発電機や長期間使用していない主要設備の健全性確認
- (3) 緊急時等の対応能力が十分であること
 - ・過酷事故シナリオ訓練において的確な緊急時対応が継続できる状態であること
 - ・運転や保全業務に関わる発電所員が自信をもって業務を遂行できること
- (4) 発電所で働く全ての人々が円滑にコミュニケーションを図っていること
 - ・「志」に基づく一体感醸成により経営層・所員・協力企業のコミュニケーションが活発になっている状態

(1)核物質防護の各改善措置項目の効果が十分に発揮できていること①

- ▶ 不適切事案を踏まえた36の改善措置項目が着実に進捗し、継続的に改善
- ▶ 複数の生体認証を設置し、人だけに頼らない警備を実現。また、地域の特性に合わせた改良型センサの設置などにより、不要警報について目標を大きく下回るまでに減少
- ▶ 今後、さらなる核物質防護対策の充実化に向け、立入制限区域の見直しを進めていく



<参考>立入制限区域の見直しによる効果

●現状の立入制限区域

- ① 多くの人や車両が立入制限区域内に入域 ⇒ 全ての発電所勤務者の人定確認や物品確認を行うため見張人の負担大
- ② 境界線の距離が長く、見通しが悪い
- ⇒ 侵入検知センサ設置数が多いことから不要警報の発生数も多く、監視者 の負担が大きい

●見直し内容

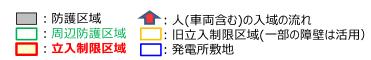
立入制限区域を見直し、監視すべき対象の最適化・重点化を図ることでセキュリティ対策を強化する

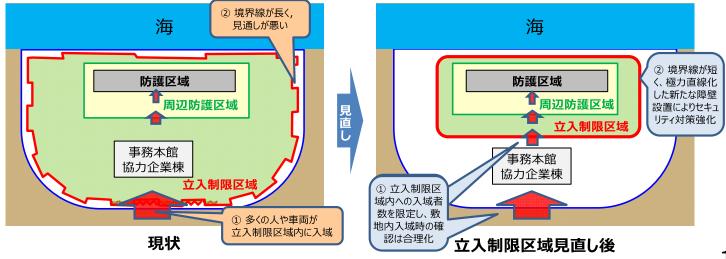
(① 発電所勤務者の執務場所は立入制限区域外側とすることで、<u>立入制限区域入域者数を限定</u>する一方、 敷地内入域時の確認は合理化、② 境界線が短く、極力直線化した新たな立入制限区域用の障壁設置)

●期待される効果

・監視の最適化、重点化によるセキュリティ対策向上

不要警報削減にも寄与





※実際の境界線等の形を示したものではありません

12

2

(1)核物質防護の各改善措置項目の効果が十分に発揮できていること②

- ➤ 運用面においても、CAP活動やモニタリング室の行動観察により、自ら弱みを改善し、一過性の ものとはしない仕組みが定着
- ▶ 発電所で働く方々の大半が、核セキュリティ文化醸成の基本方針を認識し、振舞えている状況
- ➤ IAEAや第三者委員会からも、改善が継続して図られていると一定の評価



- 正門や車両検査場等における警備 状況の定点観察や核物質防護に 関する意識調査を実施
- 社長へ定期的に結果を報告し、 発電所へフィードバック
- 気づきを踏まえ、発電所の運用や所 員、協力企業の方々の振舞いを 速やかに改善



- 2024.3.25~4.2に実施
- 報告書では「改善措置計画のほと んどが完了し、一連の問題の根本 原因に対処した」と評価
- ✓ 一方で、内部脅威の未然防止策を 含めた5点について、助言有り



<啓発ポスター>

(2)安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること①

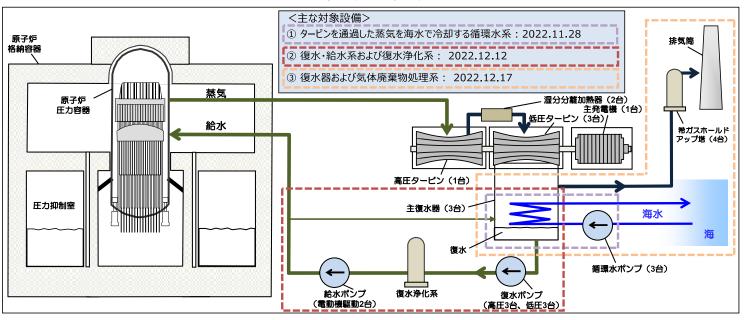
➤ 福島第一原子力発電所事故や新規制基準を踏まえた、安全対策工事を一通り実施



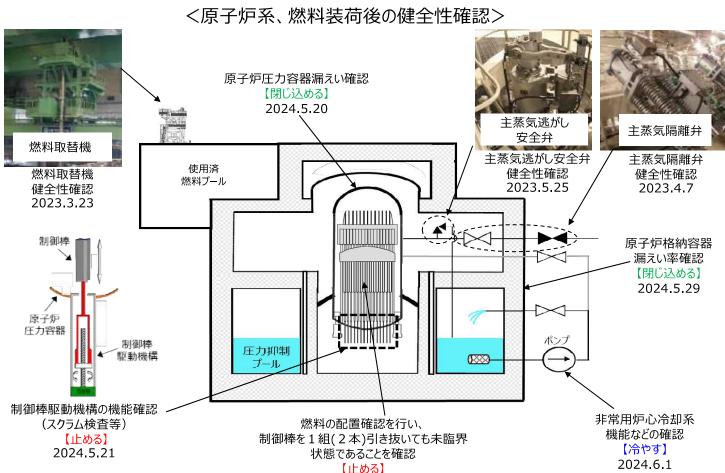
(2)安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること②

- ▶ 原子炉の起動に必要となる設備と、万が一の事故の際に必要となる、「止める・冷やす・閉じこめる」ための設備が機能を発揮できることを確認
- ▶ 協力企業との現地・現物での対話・気づきの共有は、外部レビュー機関からも評価

<タービン系の健全性確認>



(2)安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること③



2024.4.27

6

(3) 緊急時等の対応能力が十分であること①

- ▶ 対応者にシナリオを伝えない総合訓練や個別訓練を積み重ねる中で、福島第一原子力発電所事故時と比べ、各機能班の対応力は格段に向上
- ▶ 総合訓練では、二の矢、三の矢といった複数の戦術を準備し、的確な判断・指示、情報発信が 実施出来ていることを確認
- ▶ 原子力改革監視委員会のカストー氏からは、「発電所の安全レベルは非常に高い」と評価



- ✓ 2011.3.11以降、総合訓練は 170回以上実施
- 個別訓練は、がれき撤去や 電源車接続等、合計30,000 回以上実施 (全て所員にて対応)



- ✓ 重大事故の発生および拡大防止 のために必要な措置が実施出来る かを確認するため、2024.1.30~ 2.1にシーケンス訓練、2.6に大規 模損壊訓練を実施
- ✓ 現場対応について想定時間内 に対応が完了



- ✓ 2024.5.17にカストー氏が 緊急時対応訓練を視察
- ✓ カストー氏から「継続的な 改善が重要で、東電は訓練を 繰り返すことで、少しでも 逸脱があれば修正することを 心がけている」とも評価

8

(3) 緊急時等の対応能力が十分であること②

- ▶ 健全性確認や火力発電所等での実機体感訓練を通じて、起動、運転に関する力量を有していることを確認
- ▶ 運転員は、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、厳しいシナリオでシミュレーター訓練を積み 重ね、緊急時対応能力も向上
- ▶ 原子力改革監視委員会のクライン委員長からは、「複雑なシナリオに的確に対応し、感銘を受けた」と評価



- ✓ 2023年度は年15回/人が シミュレーター訓練を実施
- ✓ 運転経験のない運転員は経験 のある当直長等からの指導を 受け能力を向上



- 2015年以降、火力発電所等での実機体感訓練を38回実施
- ✓ 訓練を通じて生きた設備を 五感で学び経験を蓄積



- ✓ 2024.2.14にクライン委員 長が運転員訓練を視察
- ✓ クライン委員長から「運転員 と指揮官が訓練中、また訓練 後の反省会でも積極的な議論 を行っていた」とも評価

(4)発電所で働く全ての人々が円滑にコミュニケーションを図っていること①

- ▶ あいさつ運動やブログ発信、サンクスカード、対話会、全所員向け説明会、意見投書に基づく改善活動強化等、所員間、所員と協力企業間で、様々な施策を展開したことにより、コミュニケーションは円滑になり、職場・現場でのワイガヤも増加
- ▶ 所員との対話においても、ポジティブな意見が増えており、視察にきていただいた社外の方々からも 「明るい雰囲気、活気がある」と評価



- ✓ 2022.4以降、日々、あいさつ 運動を正門・手荷物検査場・ 副防護本部で実施
- ✓ 協力企業の所長もあいさつ運動 に参加し、所員と協力企業間の コミュニケーション向上に寄与
- ✓ 窓開け、入構証提示率100%



- ✓ 褒める・褒められるの輪を広げる ため、所員や協力企業の皆さま の振舞いに対してサンクスカード 等を所長自らが贈呈
- ✓ 所員延べ約3,600名、協力企業の皆さま延べ約1,500名に贈呈



- ✓ 所員と経営層との対話会を継続 して実施
- ✓ 対話会において、出た意見や 気づきは、CAP等で管理し、 適宜対応

10

(4)発電所で働く全ての人々が円滑にコミュニケーションを図っていること②

- ▶ 企業朝礼等に参加し、発電所の方針を直接伝え、ご意見・ご要望を伺う取組が定着
- ▶ 改善措置評価委員会からは、「発電所の雰囲気、協力企業作業員と所員の関係性が改善された」と評価



- 二次・三次請も参加している協力企業の朝礼に参加し、取り組みの目的や意義等をワンボイスでお伝え
- ✓ 協力企業の皆さまから、いただい たご要望やご意見は、必要なも のについてCAP等で対応

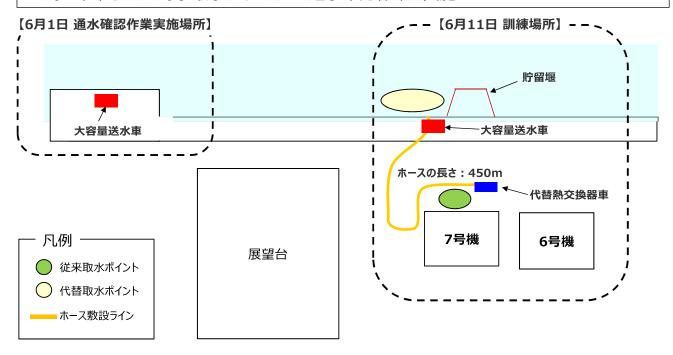


- ✓ 人身災害発生時には、当該企業に加え、各元請企業の災害防止責任者と現場で議論
- ✓ 同様の災害を発生させない仕組 みを協力企業とともに構築
- ✓ 現在は、ヒューマンエラー等の 事案にも拡大して実施



- ✓ 目安箱を設置し、タイムリーに 改善内容をフィードバック
- ✓ これまで300件近いご意見や ご要望をいただいており、CAP等 で対応したものから掲示板等で 周知

- ▶ 6月11日に想定外の地盤隆起が発生した場合の海水取水訓練を実施(原子力規制庁も確認)
- ▶ 本訓練では、450mのホースを敷設する作業や大容量送水車・代替熱交換器車へのホース接続、水中ポンプの吊上げ等を実施。また、6月1日に発電所内の物揚場にて水中ポンプを海へ吊下ろし、海水取水やホースへの通水確認作業を実施



【写真】訓練の様子

<6月11日>

- ・大容量送水車、水中ポンプ、ホース等を代替取水ポイントまで移動
- ・代替取水ポイントでホースを展開・接続し、取水・送水準備を実施







<6月1日>

・物揚場にて海水取水、ホースへの通水を確認







プレス公表(運転保守状況)

発生日	2022年8月17日		
号機	5	件名	原子炉建屋1階ケーブルトレイ貫通部からの空気の流れの確認について(区分:Ⅲ)

【事象の発生】

2022年8月16日午前11時11分頃、巡視点検中の当社運転員が、地下1階の非管理区域にある高圧電源盤室において、当該電源盤室と 地下2階の管理区域エリア(通路)を貫通するケーブルトレイと貫通部の隙間より、管理区域側から非管理区域側へ空気が流れている ことを確認いたしました(1か所)。また、8月17日、当該電源盤室を調査した結果、空気の流れがある箇所を新たに3か所確認いた しました。

1

ケーブルトレイ周辺、貫通部および管理区域内の空気について放射能測定を実施した結果、汚染がないことを確認いたしました。 なお、当該貫通部については、養生テープやシール材による閉止処置が完了しており、空気の流れは止まっております。 また、全号機の高圧電源盤室内の類似箇所を調査した結果、同様な空気の流れは確認されませんでした。

2022年8月23日までに当該部にシール材を充填し、補修を実施したが、手をかざすと僅かに空気の流れがあることを確認いたしました。 今後、空調のエアバランス調整や定期的な漏えい確認、補修方法の検討を進めてまいります。

なお、当該エリアは二重扉の外で汚染の可能性が低い場所であり、放射能測定を実施した結果、汚染がないことを確認しています。 現在、本事案を受け、同様な箇所がないかの調査を行うべく検討を進めており、まとまり次第、調査を進めてまいります。 7号機において、同様な箇所がないことを確認いたしました。1~6号機について、引き続き調査を進めてまいります。

(2023年1月12日にお知らせ済み)

1~6号機において、管理区域側から非管理区域側へ空気が流れている箇所がないか調査を行った結果、同様な箇所がないことを 確認いたしました。

原因については、シール材の劣化や破損により、貫通部の隙間が生じたものと推定しました。

<u>今後、定期的にシール材の劣化や破損状況を確認し、劣化や破損が見つかれば、適宜補修してまいります。</u>

プレス公表(運転保守状況)

発生日			2024年4月17日
号機	7	件名	制御棒1本分の駆動用モーターの電源不具合について(区分:Ⅲ)

【事象の発生】

2024年4月17日午前7時13分頃、燃料装荷作業中の7号機において、制御棒の挿入準備のため、駆動用モーターのブレーカーを入れましたが、その後すぐに制御棒1本分のブレーカーが落ちていることを確認しました。 なお、当該の制御棒が挿入される箇所には、燃料は入っておらず、その他の燃料が装荷されている箇所には、 全て制御棒が挿入されていることから、安全上の問題はありません。

【対応状況】

2

モーターを起動していない(負荷がない)状態でブレーカーが落ちたため、ブレーカーの負荷側に過大電流が流れた痕跡がないか調査しました。

調査の結果、負荷となるモーターは動作しておらず、周波数変換器に短絡や地絡といった異常はありませんでした。 また、ブレーカーの単体試験でも問題がないため、使用可能と判断しましたが、万全を期すため、ブレーカーと周波数変換器を 予備品に取替えました。

取替え後に制御棒駆動機構の動作確認も実施し、異常がないことを確認したため、燃料装荷作業を再開いたしました。 なお、交換したブレーカーと周波数変換器は、メーカーにて詳細調査を実施します。

(2024年4月17日にお知らせ済み)

交換したブレーカーと周波数変換器について、メーカーにて分解点検や不具合の再現性確認などの詳細調査を実施し、 異常が無いことを確認した。

地域活動への参加

- ▶ 地域活動は、地域の皆さまの「想い」や「声」を所員が直接肌で感じ、自らの業務における 意識改革につなげるため、コロナ禍以降、あらためて取り組みを強化
- ▶ 今年度は6月までに、延べ169人の社員が参加。2022年度以降では、合計234回の地域 活動に、発電所の全所員が参加(延べ2300人以上)
- ▶ 地域を愛し、地域に愛される発電所を目指し、今後も取り組みを継続

活動内容	活動日	参加人数
荒浜海岸道路除砂作業	4月7日(日)	36人
高浜コミュニティーセンター花植え	4月23日(火)	3人
中央海岸清掃(柏崎マリンスポーツ連絡協議会主催)	5月11日(土)	7人
鯨波コミュニティーセンター除草作業	5月15日(水)	7人
柏崎潮風マラソン大会運営補助	5月19日(日)	40人
かしわざき港おさかな祭り	6月1日~2日(土、日)	11人
大湊町内会清掃活動	6月2日(日)	6人
高浜コミュニティーセンター除草作業	6月4日(火)	3人
夢の森公園 森づくり活動	6月8日(土)	4人
刈羽村クリーン作戦	6月8日(土)	5人
さわやかウォーキング大会運営補助	6月9日(日)	11人
柏崎市えんま市翌日の清掃活動	6月17日(月)	30人
夢の森公園 森づくり活動	6月22日(土)	6人
合計	14回	169人

<2024年度 地域	活動の実績>
------------	--------

年度	回数	参加人数 (累計)
2022年度	110回	1,033人
2023年度	110回	1,142人
2024年度 (6月現在)	14回	169人
合計	234回	2,344人

<これまでの地域活動の実績>



<えんま市翌日の清掃活動の様子>



役員人事

2024年6月26日 東京電力ホールディングス株式会社

本日開催の株主総会及び取締役会において役員人事を決定しましたので、当社の経営体制 を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 取締役

	氏 名	兼職等
取締役会長	*小林 喜光	
取締役	*大八木 成男	
取締役	*大西 正一郎	フロンティア・マネジメント株式会社代表取締役社長執行 役員、弁護士
取締役	*新川 麻	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー弁護士
取締役	*大川 順子	
取締役	*永田 高士	公認会計士
取締役	小早川 智明	
取締役	山口 裕之	
取締役	酒井 大輔	
取締役	児島 力	
取締役	福田 俊彦	
取締役	吉野 栄洋	原子力損害賠償・廃炉等支援機構連絡調整室長
取締役	守谷 誠二	

*は社外取締役

2. 委員会委員

指名委員会	*小林 喜光、大八木 成男、大西 正一郎、新川 麻、小早川 智明、吉野 栄洋
監査委員会	*守谷 誠二、小林 喜光、大西 正一郎、大川 順子、永田 高士
報酬委員会	*大八木 成男、新川 麻、大川 順子、永田 高士

*は委員長

3. 執行役

(1)第100回定時株主総会後の執行役

	氏 名	事務委嘱	業務分担
代表執行役 社長	*小早川 智明	新経営理念プロジェクト本 部事務局長兼原子力改革特 別タスクフォース長	業務全般、核物質防護モニタ リング室、浜通り廃炉産業プ ロジェクト室、立地地域室
代表執行役	*山口 裕之	最高財務責任者兼 ESG 担当	業務全般、企画室(収支・財務 領域)、ESG 推進室、経理室
副社長	*酒井 大輔	経営企画担当(共同)	業務全般、企画室、系統広域 連系推進室、グループ事業管 理室、JERA 管理室
	*児島 力	最高イノベーション責任者 兼事業再構築・アライアンス 担当兼ビジネスディベロッ プメント室長	投資統括室、海外事業室
執行役 副社長	*福田 俊彦	原子力・立地本部長兼原子力 改革特別タスクフォース長 代理兼同事務局長	
	小野 明	福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント兼廃炉・汚染水対策最高責任者兼原子力・立地本部副本部長	
	秋本 展秀	福島復興本社代表兼福島本 部長兼原子力·立地本部副本 部長	
	関 知道	最高情報責任者兼最高情報 セキュリティ責任者	DXプロジェクト推進室、システム統括室、技術統括室、土木・ 建築統括室、セキュリティ統括 室、経営技術戦略研究所
	長﨑 桃子	最高マーケティング責任者 兼エリアエネルギーイノベ ーション事業室長	EV 推進室、蓄電池ビジネス室
	伏見 保則	防災・安全統括兼最高カイ ゼン責任者	安全推進室、カイゼン推進室
常務執行役	岸野 真之	最高リスク管理責任者兼秘 書室長	内部監査室
	吉田 貴彦	最高イノベーション責任者 補佐兼チーフ・スポークス パーソン	原子力安全監視室、広報室
	村松 明典	首都圏・立地地域連携担当兼 カーボンニュートラル・防災 支援担当	エリアエネルギーイノベーション事業室 (共同)
	忍 義彦	最高労務人事責任者	人財統括プロジェクト室、組織・労務人事室、総務・法務室、 ビジネスソリューション・カン パニー
	橘田 昌哉	新潟本社代表兼新潟本部長 兼原子力·立地本部副本部長	

	宗 一誠	原子力·立地本部青森事業本 部長兼原子力·立地本部副本 部長	
	稲垣 武之	原子力·立地本部柏崎刈羽原 子力発電所長兼原子力改革 担当兼新潟本部	
執行役	*吉野 栄洋	会長補佐兼社長補佐兼経営 企画担当(共同)	

*は取締役を兼務

(2)執行役の職務分掌の一部変更

(2024年6月27日付)

氏 名		事務委嘱	業務分担
常務執行役	新	最高マーケティング責任者	エリアエネルギーイノベーショ ン事業室 (共同)
長﨑 桃子	Ш	最高マーケティング責任者兼工 リアエネルギーイノベーション 事業室長	EV推進室、蓄電池ビジネス室

(2024年6月28日付)

氏 名		事務委嘱	業務分担
常務執行役	新	最高リスク管理責任者	原子力安全監視室、内部監査 室、秘書室
岸野 真之	旧	最高リスク管理責任者兼秘書室 長	内部監査室
常務執行役	新	最高イノベーション責任者補佐 兼チーフ・スポークスパーソン	広報室
吉田 貴彦	旧	最高イノベーション責任者補佐 兼チーフ・スポークスパーソン	原子力安全監視室、広報室

(2024年7月1日付)

氏 名		事務委嘱	業務分担
常務執行役	新	防災・安全統括兼最高調達責任者 兼最高カイゼン責任者	安全推進室、調達部、カイゼン 推進室
伏見 保則	旧	防災・安全統括兼最高カイゼン責 任者	安全推進室、カイゼン推進室
常務執行役	新	最高労務人事責任者	組織・労務人事室、総務・法務室、 ビジネスソリューション・カンパ ニー
忍義彦	旧	最高労務人事責任者	人財統括プロジェクト室、組織・ 労務人事室、総務・法務室、ビジ ネスソリューション・カンパニー

以 上

<参考>執行役の体制(2024年7月1日付)

3. 0113	えの体制(2024年)	事務委嘱	業務分担
代表執行役 社長	*小早川 智明	新経営理念プロジェクト本部事 務局長兼原子力改革特別タスク フォース長	業務全般、核物質防護モニタリング 室、浜通り廃炉産業プロジェクト 室、立地地域室
代表執行役	*山口 裕之	最高財務責任者兼 ESG 担当	業務全般、企画室(収支・財務領域)、 ESG 推進室、経理室
副社長	*酒井 大輔	経営企画担当(共同)	業務全般、企画室、系統広域連系推 進室、グループ事業管理室、JERA 管理室
	*児島 力	最高イノベーション責任者兼事 業再構築・アライアンス担当兼ビ ジネスディベロップメント室長	投資統括室、海外事業室
執行役 副社長	*福田 俊彦	原子力・立地本部長兼原子力改革 特別タスクフォース長代理兼同 事務局長	
小	小野 明	福島第一廃炉推進カンパニー・プレジデント兼廃炉・汚染水対策最高責任者兼原子力・立地本部副本部長	
	秋本 展秀	福島復興本社代表兼福島本部長 兼原子力・立地本部副本部長	
	関 知道	最高情報責任者兼最高情報セキ ュリティ責任者	DXプロジェクト推進室、システム統括室、技術統括室、土木・建築統括室、セキュリティ統括室、経営技術戦略研究所
	長﨑 桃子	最高マーケティング責任者	エリアエネルギーイノベーション事 業室 (共同)
	伏見 保則	防災・安全統括兼最高調達責任 者兼最高カイゼン責任者	安全推進室、調達部、カイゼン推進室
	岸野 真之	最高リスク管理責任者	原子力安全監視室、内部監査室、秘書室
常務執行役	吉田 貴彦	最高イノベーション責任者補佐 兼チーフ・スポークスパーソン	広報室
	村松 明典	首都圏・立地地域連携担当兼カー ボンニュートラル・防災支援担当	エリアエネルギーイノベーション事 業室 (共同)
	忍 義彦	最高労務人事責任者	組織・労務人事室、総務・法務室、ビジネスソリューション・カンパニー
	橘田 昌哉	新潟本社代表兼新潟本部長兼原 子力·立地本部副本部長	
	宗 一誠	原子力・立地本部青森事業本部長 兼原子力・立地本部副本部長	
	稲垣 武之	原子力·立地本部柏崎刈羽原子力 発電所長兼原子力改革担当兼新 潟本部	
執行役	*吉野 栄洋	会長補佐兼社長補佐兼経営企画 担当(共同)	

*は取締役を兼務

柏崎刈羽原子力発電所に関する コミュニケーション活動等の取り組み

いただいた声

- ◆若者への浸透を図るためにSNSをもっと活用した方が良い。
- ◆発電所の設備だけではなく、どんな人がどんな想いで働いているかを紹介して 興味を持ってもらうべき。

取り組み事項

- ◆発電所インスタグラムを、発電所に関心の無かった方々へ状況をお伝えする手段として強化しています。
- ◆これまでは発電所の景色等を中心に投稿していましたが、発電所員の日常や 仕事に対する個人の想い等に焦点をあてた内容に変更しています。
- ◆短編動画も織り交ぜて頻度高く更新していきます。













【燃料装荷後の健全性確認】

工程	進 捗 状 況
〇 燃料配置確認(4/26 完了)	〇 装荷された燃料が正しい配置で あることを確認
〇 未臨界状態の確認(4/27 完了)	〇 制御棒を 1 組完全に引き抜いて も未臨界状態であることを確認
〇原子炉圧力容器の漏えい確認 (5/20 完了)	○原子炉圧力容器や配管に水を 張り、加圧した後、原子炉圧力 容器や配管等から水の漏えいが ないことを確認
〇制御棒駆動機構の機能確認 (5/21 完了)	〇 制御棒 1 組 (2 本)を全て引き 抜いた後、水圧で急速に挿入し、 原子炉の緊急停止 (スクラム) 機能を 205 本*ある全ての制御棒 で確認 ※ 1 本のみ単独で制御棒の機能 確認を実施
〇 原子炉格納容器の漏えい率確認 (5/29 完了)	〇 格納容器に窒素ガスを充填し、 加圧後に格納容器から漏れ出る 1日あたりの窒素ガスの漏えい率 を測定し、漏えい率が基準値以下 であることを確認
〇 非常用炉心冷却系機能などの 確認(6/1 完了)	〇 非常用ディーゼル発電機、非常用 炉心冷却系が、所定の時間内に 自動起動し、自動起動したポンプ が所定の能力を発揮できること を確認

【特記事項】

〇 昨日(6/12)までに、6/3 より開始した 7 号機全体として弁の開閉確認など 原子炉に係る設備が問題なく機能出来る状態であるかの確認(系統構成)を実施 しました。 設備の設計・製作

「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

使用済燃料プールからの燃料取り出しは、2014年12月22日に4号機が完了し、2021年2月28日に3号機が完了しました。引き続き、1、2号機の燃料取り出し、 $1\sim3$ 号機燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています。

(注1)事故により溶け落ちた燃料

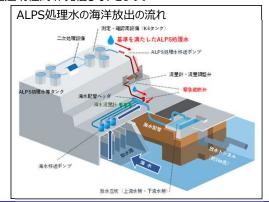


シナリオ・技術の検討

処理水対策

多核種除去設備等処理水の処分について

ALPS処理水の海洋放出に当たっては、安全に関する基準等を遵守し、人及び周辺環境、農林水産品の安全を確保してまいります。また、風評影響を最大限抑制するべく、強化したモニタリングの実施、第三者による客観性・透明性の確保、IAEAによる安全性確認などに継続的に取り組むとともに、正確な情報を透明性高く、発信していきます。



汚染水対策 ~3つの取組~

(1)3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取組 ①汚染源を「取り除く」②汚染源に水を「近づけない」③汚染水を「漏らさない」

解体等

- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水は、多核種除去設備での処理を行い、 溶接型タンクで保管しています。
- 陸側遮水壁、サブドレン等の重層的な汚染水対策により、建屋周辺の地下水位を低位で安定的に管理しています。また、建屋屋根の損傷部の補修や構内のフェーシング等により、汚染水発生量は抑制傾向で、対策前の約540m³/日(2014年5月)から約80m³/日(2023年度)まで低減し、「平均的な降雨に対して、2025年内に100m³/日以下に抑制」を達成しました。
- 汚染水発生量の更なる低減に向けて対策を進め、2028年度までに約50~70m³/日に抑制することを目指します。

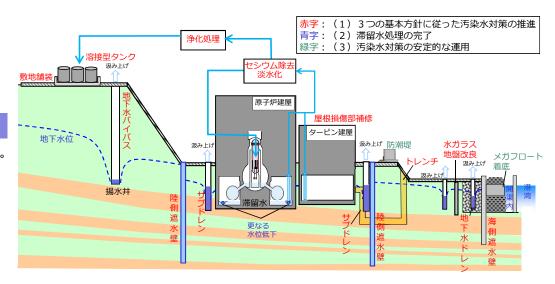
(3)汚染水対策の安定的な運用に向けた取組

解体等

• 津波対策として、建屋開口部の閉止対策を実施し、防潮堤設置工事が完了しました。また、豪雨対策として、土嚢設置による直接的な建屋への流入を抑制するとともに、排水路強化等を計画的に実施していきます。

(2)滞留水処理の完了に向けた取組

- 建屋滞留水水位を計画的に低下させるため、滞留水移送装置を追設する工事を進めております。
 2020年に1~3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く建屋内滞留水処理が完了しました。
- ダストの影響確認を行いながら、滞留水の水位低下を図り、2023年3月に各建屋における目標 水位に到達し、1~3号機原子炉建屋について、「2022~2024年度に、原子炉建屋滞留水を 2020年末の半分程度に低減」を達成しました。
- プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の地下階に、震災直後の汚染水対策の一環として設置したゼオライト土嚢等について、線量低減策及び安定化に向けた検討を進めています。



取組の状況

◆1~3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月安定的に推移しています。

また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく、 総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

ALPS処理水海洋放出について

ALPS処理水の2024年度第2回放出は6 月4日に計画通り完了しました。

2024年度第3回放出に向け、測定・確認 用設備のタンクB群を分析した結果、東京電 力及び外部機関において放出基準を満足し ていることを確認しました。その上で、6月28日 から測定・確認用設備のタンクB群のALPS処 理水の海洋放出を開始予定です。

引き続き、海水中のトリチウムについて東京 電力が毎日実施する迅速な分析の結果等か ら、計画どおりに放出が基準を満たして安全に 行われていることを確認していきます。

タンク解体について

3号機の燃料デブリ取り出し関連施設 の設置場所として想定している」8・J9エリ アの溶接型のタンクの解体について、準 備が整い次第、実施計画を申請する予 定です。

タンクの解体は、2024年度下期から 2025年度末にかけて実施する予定であ り、7月からタンク内の残水処理や周囲の 干渉物の撤去等の準備作業を実施する 予定です。

安全を最優先に、慎重に作業を進めて いきます。

2号機 燃料デブリ試験的取り出し作業の準備状況について

燃料デブリの試験的取り出しに用いるテレスコ式装置に ついて、6月18日に原子力規制委員会による工場での使 用前検査(耐圧確認検査)を受検し、「良」の判定を頂 きました。現在、福島第一原子力発電所への輸送準備を 進めており、据え付け後にも検査を受検する予定です。

現場では、貫通孔(X-6ペネ)に接続構造及び接続 管の接続作業が6月26日に完了しました。引き続き、テレ スコ式装置を原子炉建屋に設置するための準備を進めて いきます。

試験的取り出しの着手時期としては、現時点で2024 年8月から10月頃を見込んでいます。

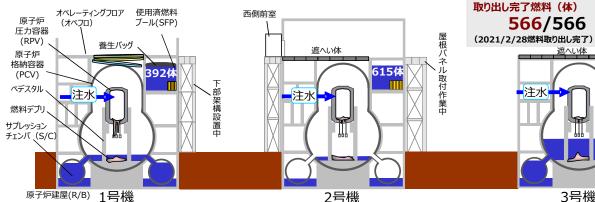
ドーム屋根 燃料取扱機

引き続き、安全確保を最優先に着実に作業を進めてい きます。

FHMガーダ



<X-6ペネに接続構造を接続している様子>



3号機

取り出し完了燃料(体) **1535**/1535*1 (2014/12/22燃料取り出し完了) 燃料取り出し用 カバー 2016/3/31 遮水

4号機 *1:2012年に先行して 取り出した新燃料2体を含む

港湾魚類対策の取組

これまで実施した重層的な港湾魚類 対策に加え、魚類移動防止網の網目 の微細化や東波除堤の魚類移動防止 網のリプレイスを実施してきました。

6月13日に、1-4号機取水路開渠 の海底再被覆工事が完了し、海底の 土砂が被覆されることで環境改善も進 み、港湾魚類対策をさらに強化すること ができました。

引き続き、港湾内の海底十の調査及 びK排水路の水質改善等に取り組み、 港湾内全体の環境改善等を含めた対 策に努めます。



<海底再被覆工事(覆土施工)の様子>

作業点検の実施状況

昨年発生した身体汚染や建屋から の水漏れ、所内電源停止等の発生を 受け、発電所の全作業に対して作業 点検を実施し、6月7日に点検が完了 し、確認された改善事項や気づき等に ついて、改善を行っています。

本取組を受け、リスクアセスメントに 係るプロセスの強化を図るとともに、本 活動が定着するよう当社及び協力企 業に対して教育を行っていきます。

引き続き、廃炉作業を安全・着実に 進めるため、取組を継続していきます。

6号機高圧電源盤6Cの電源停止及び火災報知器の作動について

6月18日に6号機高圧電源盤6Cが電源停止し、同時刻に、6号機使 用済燃料プール冷却浄化系(FPC)ポンプBが自動停止しました。また、 6号機タービン建屋地下1階の火災報知器が発報しました。

プール内の使用済燃料については、十分に冷却されているため、実施計 画上の制限値までは水温が上昇しないことが確認されており、現場の安全 を確認した上で、FPCポンプについては同日夕方に運転を再開しました。 使用済燃料プールの水位・水温や、モニタリングポスト等にも有意な変動 は確認されていません。

また、現場確認の結果、公設消防により火災が発生したとの判定を受け ました。天井付近にあるダクト内の母線の導体に損傷が確認され、短絡が 発生したものと推定していますが、引き続き原因究明を行います。

主な取組の配置図 2号機 燃料デブリ試験的取り出し作業の準備状況について ALPS処理水海洋放出について 港湾魚類対策の取組 海側遮水壁 凍土方式による 陸側遮水壁 2号 3 号 1 号 4 号 プロセス主建屋 6 号 5 号 サブドレン MP-1 高温焼却炉建屋 雑固体廃棄物焼却設備 MP-8 6号機高圧電源盤6Cの電源停止及び 火災報知器の作動について 地下水バイパス 廃棄物貯蔵庫 設置エリア 廃棄物処理·貯蔵設備 貯蔵庫設置予定エリア MP-7 タンク設置エリア MP-2 增設雑固体廃棄物焼却設備 敷地境界 タンク解体について MP-4 作業点検の実施状況

提供:日本スペースイメージング(株) 2021.4.8撮影 Product(C)[2021] DigitalGlobe、Inc.、a Maxar company.

第20回特定原子力施 設の実施計画の審査等 に係る技術会合再掲

■概要

2024年6月18日 08:33頃 6号機M/C 6A-2(1B)しゃ断器がトリップし、M/C 6C(6B)受電 しゃ断器がトリップ(M/C 6C母線停止)により、D/G6Aが自動起動する事象が発生。 合わせて、FPCポンプ(B)がトリップした。

また、08:35頃に6号機T/B地下1階の火災報知器が発報した。

■ 時系列

6/18 08:33頃	M/C6A-2(1B)しゃ断器トリップ、M/C6C(6B)(M/C6C受電しゃ断器)トリップ
	D/G6Aが自動起動したこと、FPCポンプ(B)がトリップしたことを確認

08:35頃 6号機T/B地下1階の火災報知器が発報

08:52 初期消火隊現場到着

09:18 6号機T/B地下1階、煙あり・火なしを確認

11:33 公設消防より発煙が停止していることを確認

11:40 相非分割母線※のダクトサポートに変色があることを確認

18:19 停止したFPCポンプ(B)を再起動し、使用済燃料プールの冷却を再開

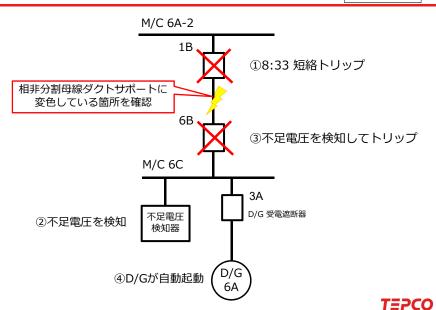
足場組上げ後、現場確認をした結果、公設消防により「火災」と判断 6/19 15:15

※相非分割母線:3相全ての母線を収容している金属製の筐体

T=PCO

1. 事象の概要(補足: M/C 6C単線結線図)

第20回特定原子力施 設の実施計画の審査等 に係る技術会合再掲



2. 現場状況(6/19調査)

第20回特定原子力施 設の実施計画の審査等 に係る技術会合再掲

■ ダクト内部状況





<健全状態>

<事故推定箇所>





<R相>

<S相>

<T相> T=PCO

4. 今後のスケジュール

第20回特定原子力施 設の実施計画の審査等 に係る技術会合再掲

6月 フ月 8月 9月 足場組立 現場調査・ 健全性確認 金属片 • 短絡メカニズム 調査 応急復旧検討

T=PCO

廃止措置実行計画2024について(2/2)

■本資料では第1段階(10年)の実行計画についてお示しいたします。

□ 2021年6月23日から着手



○目標工程

·初回除染工事(2021年度完了)

- 1~4号炉において、制御棒駆動機構補修室内の設備・機器の汚染の除去を実施





1号炉 除染作業

3号炉 除染作業

初回除染以降の除染工事(2025年度以降)

- 汚染状況の調査における現場測定結果を踏まえて計画

核燃料物質による汚染の除去(1/3)

T=PCO

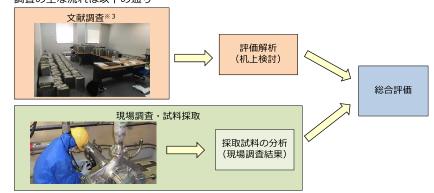
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

汚染状況の調査(1/4)

○目標工程

・放射化汚染※1状況の調査および二次的な汚染※2状況の調査(2021年度~2028年度)

- 調査の主な流れは以下の通り



- 放射化汚染状況および二次的な汚染状況の調査結果をもとに、解体撤去工事で発生する 廃棄物量の推定評価の精度向上を図る
 - ※1 放射化汚染:原子炉運転中の中性子照射により炉心部等の構造材が放射化して生成される汚染
 - ※2 二次的な汚染:冷却材中の放射化した生成物が、機器及び配管の内面に付着する汚染
 - ※3 文献調査:設計情報・運転・使用状況の記録・修理・改造等の記録等の収集

6

【全体概要】放射線管理区域外(屋外)の設備の解体撤去

- 屋外に設置している設備・機器については、安全確保の機能に影響を与えない 範囲内で解体撤去丁事を行います。
- 解体物のうち、有用物は可能な限り有効利用に努め、廃棄物は法規制に従い 適切な処理・処分を行います。
- なお、第1段階では、放射線管理区域内での解体撤去工事は行いません。

放射線管理区域外(屋外)に設置されている設備(例)





軽油タンク

R系軽油タンク





・総合評価(2025年度~2030年度)

区分:Ⅲ

号機	3 号機
件名	タービン建屋(管理区域)におけるけが人の発生について
	2024年7月1日午後1時30分頃、3号機タービン建屋地上1階大物搬入口前エリアにおいて、足場材の運搬作業に従事していた協力企業作業員が、移動中に足を滑らせ転倒しました。その後、腫れや痛みもなく作業を継続していましたが、帰宅後、転倒時についた左手首に腫れと痛みを感じたことから、7月2日に病院で診察を受けました。なお、本人に身体汚染はありません。
不適合の 概要	けがの発生状況
	(移動中に転倒し、左手首を負傷)
安全上の重 要度/損傷 の程度	<安全上の重要度> <損傷の程度> 安全上重要な機器等 その他 ■ 法令報告不要 □ 調査・検討中
対応状況	病院で診察の結果、左手関節捻挫と診断されました。 なお、念のため後日精密検査を受ける予定です。 今回の事例を踏まえ、発電所関係者に周知し注意喚起を行うとともに、再発防止に 努めてまいります。